住まいの飾り職人
ATOM LIVINTECH

ATOM LIVINTECH IR NEWS

第64期報告書

平成29年7月1日～平成30年6月30日

経営理念

「住まいの飾り職人」が つくり出す独創的な商品で、社会の発展に貢献します

社　訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社　是

「創意・誠実・進取」

社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箪笥、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する銪職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビンテック」には、ご説明の要もない「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる=リブ・イン・テック」の意味が篭められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

第64期の業績についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第64期の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

第64期におきまして、当社の関連する住宅市場は、低水準にある住宅ローン金利や被災地着工の進展に加え、省エネ住宅補助金制度など政府による各種住宅取得支援政策を背景として、新設住宅着工戸数は緩やかな持ち直しの動きを示したものの、人工不足や建設資材の値上がりを背景に住宅価格は高止まりとなり、更には贈与税非課税枠を利用して急増した貸家着工需要は減少する兆しを見せており、本格的な市場の回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

こうした状況のもと、当期を最終年度とする「第9次中期経営計画（第62期～第64期）」において掲げた「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」とのスローガンのもと、内装金物全般に目を向けた「裾野の広い商品開発と新たな営業戦略の推進」を基本方針に掲げ、住宅関連産業における企画開発型企業として、より現場主義に徹した商品開発を目指し、機能性と利便性を向上させつつ、市場ニーズに応える「ものづくり」を推進するとともに、活動を本格化した「セールスプロモーションチーム」を主軸に、変革期を迎えた金物業界に一石を投じ、従来の販売チャネルとの信頼関係を守りながらも中小需要家への対応強化を図り、全方位のお客様に対する積極的な営業活動に最大の努力を傾注してまいりました。加えて、販売費及び一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じ、困難な市場環境に対応しうる営業体制とこれを支える管理体制の強化を図り、当面する課題に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの結果、第64期の業績は、売上高104億83百万円（前期比0.5%減）、営業利益6億30百万円（前期比10.2%増）、経常利益6億56百万円（前期比10.7%増）、当期純利益4億46百万円（前期比16.9%増）となりました。

当社は、第65期を初年度とする「第10次中期経営計画（第65期～第67期）」におきまして、「自己改革を追究する企業風土の承継と発展」とのスローガンのもと、基本方針として「内装金物（住まいの金物）の全般」を自社ブランドで網羅する「住空間創造企業」を目指し、ソフトクローズ関連商品の拡充はもとより、全方位型の営業展開を通して得られた顧客の要望を効率よく商品化すべく、営業と企画開発との連携・強化を図り、当社独自のスタイルで「ものづくり」を推進するとともに、周辺の事業領域と販路の拡大に取り組み、更には将来の当社を支えるべき発想豊かな人材の育成に励み、組織をあげて次代を担う基盤づくりと一層の進化を目指してまいります。

平成30年9月

代表取締役社長　髙橋 良一

創業以来、培ってきた価値観や行動規範を共有しながら、「企画開発型企業」として時代と市場のニーズに応える「ものづくり」を推進してまいります。

第64期の業績について

現場に密着した商品開発と全方位型の積極的な営業活動で、大幅な増益を達成いたしました。

第64期におきまして、当社が関連する住宅市場は、人工不足や建築資材の値上がりにより住宅価格が高止まりする中、相続税対策による貸家着工需要が減少しつつある一方で、東京オリンピック・パラリンピックに向けた宿泊施設の建築・改装ラッシュを迎えるなど、これまでの市場動向とは異なる動きを示しました。当社におきましては、こうした経営環境の急変に対応するため、現場主義に徹した商品開発と全方位型の積極的な営業活動を展開してまいりました。

商品戦略につきましては、営業本部直轄の「営業設計グループ」を主軸に据え、機能性や利便性の向上を実現しつつ、ソフトクローズのトップメーカーとして商品群の拡充と市場への浸透に全力を注いでまいりました。

市場戦略につきましては、営業本部直轄として立ち上げた「販売促進グループ」において、当社商品の認知度向上と販路開拓を含む積極的な営業支援活動を展開しておりますとともに、アトムCSタワーにおきましては、これまでの「秋の内覧会」「春の新作発表会」といった当社が独自に展開する年2回のセールスプロモーション活動に加え、新しいライフスタイルに応じた空間づくりを提案するスペースとして新たに「LIVIN’ ZONE」を開設し、第一弾として「住空間」への提案を、第二弾として保育施設や介護施設など非住宅部門への提案を、更に第三弾として各種収納に対する提案を行ってまいりました。こうした「見て」「触れて」「間仕切って」を実際に体験できるスペース「LIVIN’ ZONE」を拡充しつつ、有効に活用することで、より具体的な商談が可能となり、開発案件が急増するなど、大きな進展を図ることができました。

情報システム戦略につきましては、「統合型業務ソフトウェア」の利便性向上のためのバージョンアップを行いながら精度を高める取り組みを行ってまいりました。また、当社ホームページのリニューアルを進めてまいりましたが、中でも、「atom動画ぎゃらりー」におきまして、当社の主力商品について施工者の皆様に建築現場で施工方法や施工手順を確認できるよう動画コンテンツの拡充に努めてまいりました。

こうした取り組みの結果、第64期の業績は、売上高では期初の計画値に若干、届かなかったものの、利益面では大幅な増益となりました。こうした業績を確保できた要因は、当社の主力商品でありますソフトクローズ関連商品が幅広く浸透したことに加え、営業チームと開発チームが密に連携をとることで連鎖的に新商品や提案品を市場に投入できたことにあります。ソフトクローズ関連商品は、後発メーカーが相次いで低価格商品を投入する中、当社は新たな機能や施工方法を盛り込んだ商品を投入し、価格競争に巻き込まれることなく、独自の市場を形成してまいりました。その一方で、第9次中期経営計画で掲げたその他の金物商品の裾野を広げることについては手が回りきらなかった側面がありますが、今あるお客様のニーズをしっかりとビジネスにすることで収益の確保に寄与できたと考えております。

第10次中期経営計画について

「自己改革を追究する企業風土の承継と発展」をスローガンに、「将来の発展を支えうる経営基盤の確立と進化」を目指します。

「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」をスローガンに掲げ、内装金物全般に目を向けた「裾野の広い商品開発と新たな営業戦略の推進」を基本方針に据えた第9次中期経営計画を終えるに当たり、この間の3年間を振り返って見ますと、基本方針に掲げた「内装金物全般に目を向けた裾野の広い商品開発」については、今後の課題として残ったものの、数値目標を含め、概ね達成できたと考えております。とりわけ、経営戦略の主軸であります「変革期を迎えた金物業界における競争優位性の確保」という点に関していえば、各事業部から選抜された人材によって立ち上げた「セールスプロモーションチーム(SPチーム)」と、営業本部直轄の「営業設計グループ」が両輪となって第9次中期経営計画の推進力となりました。

こうした成果を更に発展させるべく、第65期から始まる第10次中期経営計画では、「伝統」を活かしながら「変革」にも果敢に挑む組織の活力によって、連綿と受け継いできた「ファースト精神」(他社に先駆ける進取の精神)を承継し、持続的発展を可能にする人材を確保するため、全社的な連携体制の強化と環境を整備し、社員一人ひとりの自己改革の連鎖を促すため、「自己改革を追究する企業風土の承継と発展」をスローガンに掲げることといたしました。第10次中期経営計画の詳細につきましては、後ほどご紹介させていただきますが、市場戦略に関連して若干、お話しさせていただきます。一つは、第64期におきまして、安定的な経営基盤を確保する観点から、西日本市場の強化と、運送コストの高騰および天変地異によるリスク分散を図ることを目的に、広島市内に物流・営業拠点を開設するため、移転用地を確保いたしました。すでに建設に向け着手しており、早期に稼働を開始すべく取り組んでおります。もう一つは、「海外での取り組み」強化に関連して、現地生産の強化と東南アジア市場での販売を目的としてベトナム・ホーチミン市に設立した現地法人ですが、すでに協力工場での生産を開始し、上海阿童木建材商貿有限公司を経由して日本国内での販売を開始いたしました。今後については、新たなものづくり体制の確立と価格競争力の強化を図るため、海外の現地法人を有効に活用していきたいと考えております。

株主の皆様へのメッセージ

株主の皆様との密接なコミュニケーションを確立しつつ、株主利益の向上に努めてまいります。

当社では、より多くの株主の皆様に当社の「今」をよりよくご理解いただくため、ホームページを通じたタイムリーな情報開示をはじめ、毎年夏に開催される「日経IR・投資フェア」への出展など、投資家や株主の皆様との密接なコミュニケーションに努めてまいりました。当社では、更に株主の皆様とのコミュニケーションを深めたいとの思いを込めて、今年4月、アトムCSタワー8階に、当社の歩みをご紹介したヒストリーコーナーをはじめ、タイムリーにIR情報を提供する「IRフロア」を開設いたしました。今後も、株主の皆様のご意見を伺いながら、内容の充実を図ってまいりますので、お近くにお越しの際はお立ち寄りいただければ幸いに存じます。

また、株主の皆様を大切にする当社では、安定的な経営基盤の確保と株主利益の向上に努めてまいりました。当期における株主の皆様への配当でございますが、第9次中期経営計画でお約束した「利益水準のいかんに関わらず、最低でも1株当たり年間25円の配当を維持する」ことを謳った基本方針に基づき、第64期の期末配当金につきましては1株15円とし、中間配当金の15円と合わせ、1株当たり年間配当金を30円とさせていただきました。

第10次中期経営計画では、「利益水準のいかんに関わらず、最低でも1株当たり年間30円の配当を維持する」とともに、これまで10年を節目に実施してまいりました周年記念配当を、今後は、株主の皆様のご支援にお応えするため、5年を節目に行うことを目標に掲げております。第65期以降、半期ごとに連続で迎える創業115周年、アトムブランド誕生65周年、法人改組65周年において記念配当を実施すべく、全社一丸となって業績と株主利益の向上に努めてまいります。また、株主総会でもご要望の多かった株主優待制度の導入については、第65期末の株主様より実施すべく準備しているところでございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも、当社の経営方針ならびに経営政策に対するご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

特 集 Special Feature

「2018 春の新作発表会」を東京と大阪で開催いたしました。

当社では、お客様に当社商品をよりよくご理解いただくとともに、市場のニーズに応える「ものづくり」を進めるため、年2回のプロモーション活動である「秋の内覧会」「春の新作発表会」を開催いたしております。2018年4月には、例年通り大阪の「アトム住まいの金物ギャラリー大阪（4月12～14日）」と、東京の「アトムCSタワー（4月19～21日）」で「春の新作発表会」を開催いたしました。今回の東京会場では、より具体的な商談が可能となった「LIVIN' ZONE」の第三弾として各種収納に対する提案を行い、多彩で幅広い商品の展示を行ったほか、移動間仕切り金具、引戸、折戸金具をはじめ、品揃え豊富なソフトクローズ引戸や連動引戸・折戸金具、更には空間を有効に活用できる移動間仕切り金具などの施工例をご紹介いたしました。

TOKYO アトムCSタワー

OSAKA アトム住まいの金物ギャラリー大阪

アウトセット引戸 ロングストローク

人気のHRソフトクローズに作動距離約80mmのロングストロークタイプが登場。開閉時の安心感が更にアップ!

HRソフトクローズを使用したアウトセット上吊引戸システム。上部レールは施工が簡単で、外観をすっきり仕上げることができます。また戸先と戸尻のソフトクローズは、開閉時に枠から約80mm手前より作動するロングストローク。指を挟んだりする心配がなく、安全性を確保できます。

フラットハンドル

マグネットラッチ採用!出っ張らないすっきりデザインの屋内用ドアハンドル

ハンドルが戸とフラットになるので、レバーハンドルのような出っ張りがなく、収納時も邪魔にならずコンパクト。戸を閉めるとマグネットラッチが飛び出し、ストライクに掛かります。ストライクは内側のネジを緩めるだけで、前後それぞれ2mmずつ調整が可能。黒とWB、クロームの3色があり、ドアの色合いに合わせて選べます。

ペットくぐ～る2

開閉時の音が静かになった!フレーム厚が薄いので、引戸にも使用できます。

今回の新商品は、マグネット部分が非接触型となり、開閉時の音が静かであることが大きな特長です。ふたつに折れるフラップが、押し開ける際の衝撃を吸収し、尻尾の挟まり防止にもなります。またフレームの肉厚が薄いため、開き戸だけではなく引戸にも使用可能。アイボリー、アンバー、ダークブラウン、ブラウンの4色があります。

トピックス

「自己改革を追究する企業風土の承継と発展」をスローガンに、第65期を初年度とする「第10次中期経営計画」がスタートしました。

当社は、「伝統」を活かしながら、「変革」にも果敢に挑む組織の活力によって、ファースト精神（他社に先駆ける進取の精神）を連綿と受け継いでまいりました。その結果、当社は、「つくる力」（市場のニーズに応える企画開発力）、「売る力」（全方位型営業による販売力）、「つなぐ力」（提案型の営業活動と展示会を含むアトムCSタワーでの活動全般によるお客様とのコミュニケーション力）など、当社独自の特長的なスタイルを築き上げてまいりました。

創業以来、115年の歴史で培ってきた当社独自のスタイルを有効に活用できる原動力（人材）を確保するため、全社的な連携体制の強化と環境を整備し、社員一人ひとりの自己改革の連鎖を促す企業風土の承継と発展に努めてまいります。

〈第10次中期経営計画〉自己改革を追究する企業風土の承継と発展

基本方針	将来の発展を支えうる経営基盤の確立と進化
経営課題	●自己改革に基づく活力ある組織づくり ●競争優位性の確保 ●ファースト精神の貫徹 ●経営環境の変動に左右されにくい社内体制と財務体質の構築 ●企画開発型企業としての付加価値の創出 ●安定成長を可能とする市場優位性の維持と収益力の向上 ●将来を見据えた投資の継続 ●「内装金物」という事業ドメインとATOMブランド浸透に向けた取り組み ●環境への取り組み ●環境・福祉・ユニバーサルデザインに配慮したものづくりの推進

商品戦略

- ●セールスプロモーションチームを主軸にしたニーズの吸収と商品化の推進
- ●より質の高い「企画開発力」の追求
- ●積極的な商品開発を進めるための社内体制の強化
- ●「秋の内覧会」と「春の新作発表会」を通じた商品展開と販路拡大に向けた取り組み
- ●商品紹介のための動画配信

市場戦略

- ●新設した商談スペース「LIVIN' ZONE」の活用と拡充
- ●非住宅部門への注力による事業領域の拡大
- ●次世代に繋がるビジネスの創出
- ●西日本市場における物流システムの再構築
- ●海外での取り組み

情報システム戦略

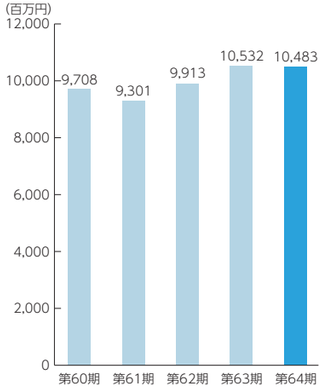
- ●統合型業務ソフトウェアの活用による業務効率の向上
- ●ホームページの最適化による業務効率の改善

未来を担う次世代に向けた挑戦 ～新時代のライフスタイルをクリエイトするアトムCSタワーの有効活用～

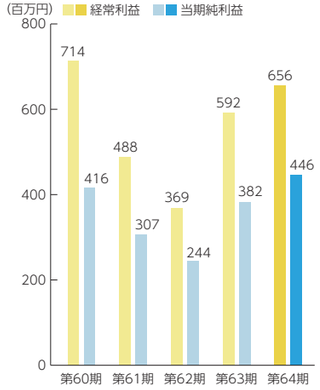
内装金物のトップ企業として商品力を認知していただく視聴覚スペース

◎情報発信のキーステーション
◎新規ビジネス創出の場

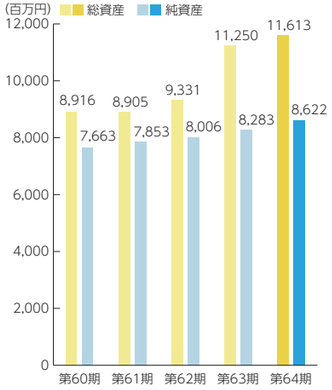
売上高



経常利益／当期純利益



総資産／純資産



主要経営指標

	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
売上高営業利益率 (%)	7.0	4.8	3.2	5.4	6.0
総資本営業利益率〔ROA〕(%)	7.8	5.0	3.5	5.6	5.5
自己資本利益率〔ROE〕(%)	5.6	4.0	3.1	4.7	5.3
流動比率 (%)	596.0	743.0	576.0	289.4	287.7
固定比率 (%)	47.4	44.2	44.2	43.9	46.6
自己資本比率 (%)	85.9	88.2	85.8	73.6	74.2
1株当たり純資産額 (円)	1,920.8	1,968.4	2,006.7	2,076.1	2,161.2
1株当たり当期純利益 (円)	104.3	77.1	61.2	95.8	112.0
1株当たり配当額 (円)	30.00	25.00	25.00	30.00	30.00
配当性向 (%)	28.8	32.4	40.8	31.3	26.8

損益計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目 ＼ 期別	前期 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)	当期 (自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日)
売上高	10,532,090	10,483,546
売上原価	7,744,260	7,621,778
売上総利益	2,787,829	2,861,767
販売費及び一般管理費	2,215,984	2,231,673
営業利益	571,845	630,094
営業外収益	23,100	26,430
営業外費用	2,522	493
経常利益	592,424	656,031
特別利益	–	–
特別損失	32,043	630
税引前当期純利益	560,380	655,400
法人税、住民税及び事業税	173,140	208,650
法人税等調整額	4,881	△156
当期純利益	382,357	446,906

Point

営業利益

売上総利益率が向上し、着実に利益を確保することができたことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、前期比58百万円の増益となりました。

貸借対照表

Point

現金及び預金

増減の詳細につきましては、キャッシュ・フロー計算書のコメントをご参照ください。

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目 ＼ 期別	前期（平成29年6月30日現在）	当期（平成30年6月30日現在）
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	4,335,045	4,350,228
受取手形及び売掛金	2,550,038	2,610,051
有価証券	201,520	100,720
商品	467,708	478,708
その他	64,037	53,057
貸倒引当金	△255	△261
流動資産合計	7,618,094	7,592,503
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	960,666	930,254
工具、器具及び備品(純額)	130,015	134,435
土地	1,027,767	1,161,285
その他(純額)	20,339	7,463
有形固定資産合計	2,138,789	2,233,438
無形固定資産	84,076	55,565
投資その他の資産		
投資有価証券	1,287,617	1,611,631
その他	121,882	120,692
貸倒引当金	△0	△149
投資その他の資産合計	1,409,500	1,732,173
固定資産合計	3,632,366	4,021,176
資産合計	11,250,461	11,613,680

科目 ＼ 期別	前期（平成29年6月30日現在）	当期（平成30年6月30日現在）
(負債の部)		
流動負債		
支払手形及び買掛金	688,836	675,347
電子記録債務	1,577,326	1,625,833
未払法人税等	111,686	132,824
製品補償引当金	65,590	47,109
その他	189,327	157,806
流動負債合計	2,632,767	2,638,921
固定負債		
退職給付引当金	142,769	149,350
役員退職慰労引当金	188,845	200,095
その他	2,600	2,600
固定負債合計	334,215	352,046
負債合計	2,966,983	2,990,967
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	7,730,268	8,057,478
自己株式	△64,475	△64,518
株主資本合計	8,239,782	8,566,950
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	43,695	55,762
評価・換算差額等合計	43,695	55,762
純資産合計	8,283,478	8,622,712
負債純資産合計	11,250,461	11,613,680

株主資本等変動計算書

（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）

単位：千円（千円未満切り捨て）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
					土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	300,745	273,245	273,245	43,189	95,868	6,000,000	1,591,210	7,730,268	△64,475	8,239,782
当期変動額										
剰余金の配当							△119,695	△119,695		△119,695
当期純利益							446,906	446,906		446,906
自己株式の取得									△42	△42
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	–	–	–	–	–	–	327,210	327,210	△42	327,167
当期末残高	300,745	273,245	273,245	43,189	95,868	6,000,000	1,918,421	8,057,478	△64,518	8,566,950

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	43,695	43,695	8,283,478
当期変動額			
剰余金の配当			△119,695
当期純利益			446,906
自己株式の取得			△42
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	12,066	12,066	12,066
当期変動額合計	12,066	12,066	339,234
当期末残高	55,762	55,762	8,622,712

キャッシュ・フロー計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目 ＼ 期別	前期（自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日）	当期（自 平成29年7月1日 至 平成30年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,261,534	677,589
投資活動によるキャッシュ・フロー	△451,604	△542,591
財務活動によるキャッシュ・フロー	△109,640	△119,815
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	0
現金及び現金同等物の増加（△減少）額	1,700,293	15,182
現金及び現金同等物の期首残高	2,634,751	4,335,045
現金及び現金同等物の期末残高	4,335,045	4,350,228

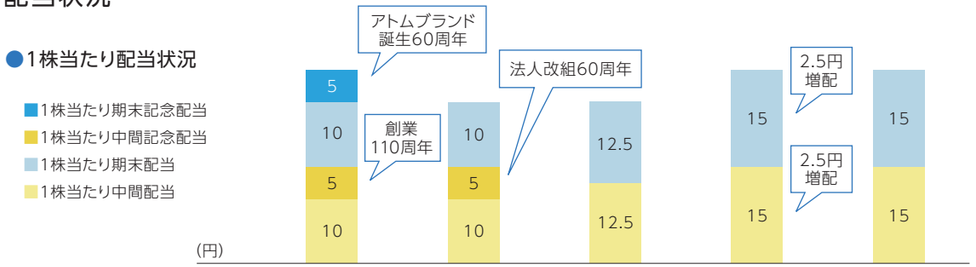
Point
営業活動によるキャッシュ・フロー
主な資金増加要因は、税引前当期純利益655百万円、資金流出ではない減価償却費274百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、法人税等の支払額181百万円等によるものです。

Point
投資活動によるキャッシュ・フロー
主な資金増加要因は、有価証券及び投資有価証券の償還による収入300百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、商品開発の金型及び土地など有形固定資産の取得による支出333百万円、投資有価証券の取得による支出503百万円等によるものです。

Point
財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金の支払額119百万円等によるものです。

配当状況

●1株当たり配当状況



	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
1株当たり年間配当	30	25	25	30	30
配当性向	28.8%	32.4%	40.8%	31.3%	26.8%

株式の概要

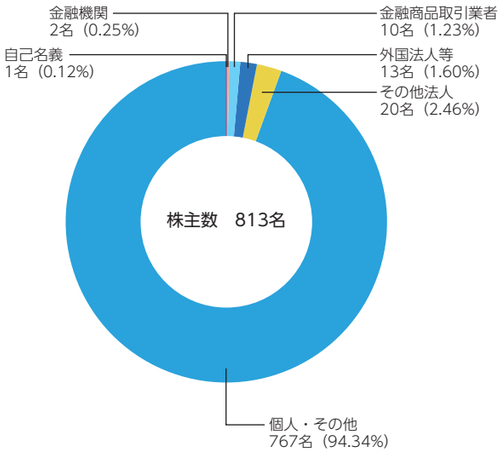
● 株式状況（平成30年6月30日現在）

発行可能株式総数	15,420,000株
発行済株式の総数	4,105,000株
株主数	813名

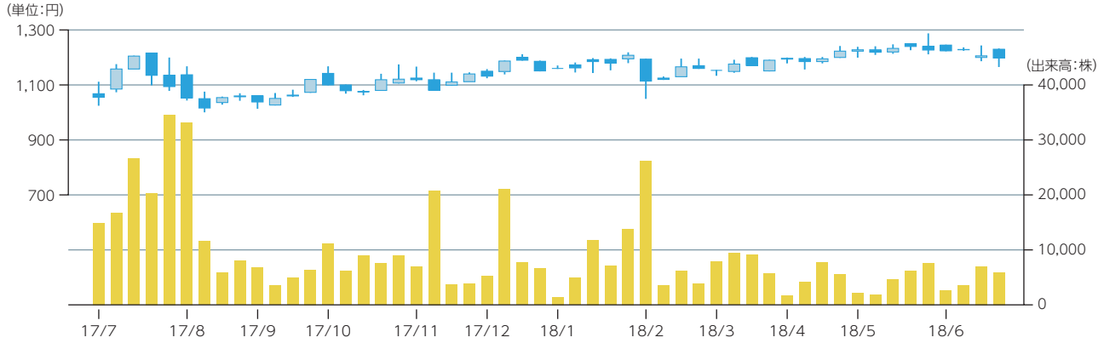
大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況 持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	885,440	21.56
髙橋　快一郎	500,000	12.18
アトムリビンテック取引先持株会	399,200	9.72
アトムリビンテック従業員持株会	290,460	7.07
髙橋　良一	290,000	7.06
髙橋　壽子	157,000	3.82
大塚　李代	123,000	2.99
アトムリビンテック株式会社	115,153	2.80
磯川産業株式会社	81,500	1.98
岡崎　衛	74,100	1.80

● 株主の所有者別分布状況（平成30年6月30日現在）



株価および出来高の推移



会社概要 （平成30年6月30日現在）

商　　号	アトムリビンテック株式会社
創　　業	明治36年
設　　立	昭和29年10月
事業内容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主要取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱UFJ銀行 株式会社三井住友銀行
従業員数	124名 （嘱託5名・パート15名含まず）

役員 （平成30年6月30日現在）

代表取締役社長	髙橋　良一
取締役副社長	髙橋　快一郎
取締役	森内　弘
取締役	上田　嗣夫
取締役	鈴木　英光
取締役	伊藤　友悌
常勤監査役	金子　豊
監査役	輿水　洋一
監査役	高島　良樹

事業所一覧 （平成30年6月30日現在）

本　　社
〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号　TEL 03-3876-0600

アトムC/Dセンター（商品本部）
〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号　TEL 048-922-5551

札幌営業所
〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号
井門札幌東ビル1F　TEL 011-748-3113

前橋営業所
〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号　TEL 027-223-2651

広島営業所
〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9　TEL 082-291-4235

アトムCSタワー
〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号
アーバンスタイル事業部　TEL 03-3437-3673
ショップ&ショールーム亜吐夢金物館　TEL 03-3437-3440

アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所
〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5　TEL 06-6821-7281

海外拠点 （平成30年6月30日現在）

子会社：ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED
（ベトナム社会主義共和国）

子会社：上海阿童木建材商貿有限公司（中華人民共和国）

ホームページも是非ご覧ください。

https://www.atomlt.com/

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、
さまざまなコンテンツをご用意しております。是非ご覧ください。

シリーズ企画

アトムCSタワー 最前線 SPECIAL ISSUE

アトムCSタワー1階ギャラリーショップ KANAGUは、生活文化にこだわりを持ち、心豊かな暮らしを求める人々が、職人の技によるインテリアグッズや日用品を実際に手にとって体感し、購入することができるギャラリーショップです。

ギャラリーショップ KANAGUのコンセプトは、モノとモノ、モノとヒト、ヒトとヒトをつなぐ「暮らしの飾り金具」。画一的な大量生産・大量販売・使い捨て的な消費ではなく、職人の魂や技と、生活者の暮らしの美学が出会い、対話するスローショッピングを目指しています。素材感、デザイン、仕上げの隅々にまで職人のこだわりが、ぎゅっと詰まった日用品やインテリアをセレクトしました。職人が紡ぐ「モノ語り」に耳を傾けて、あなたのお気に入りをゆっくり、じっくり見つけてください。

KANAGU

on the wall mini 壁掛けフラワーベース

小宇宙のような存在感の
タペストリー型花器。
バリエーションは4色展開で、
お部屋の壁を鮮やかに彩ります。
和にも洋にも、あしらい方ひとつで
表情は自由自在。
季節ごとに色を変えても風情があります。

メーカー	有限会社モメンタムファクトリー・Orii
素材	銅
サイズ	W100×H365×D17mm
重さ	350g
バリエーション	碧海（青）、墨彩（黒）、孔雀（赤）、朧銀（銀）

＊詳細は、KANAGUネットストア（https://kanagu-store.com/）でご確認ください。

社会貢献活動の一環として、「みなとコオフク塾」に協力いたしました。

アトムCSタワーが位置する東京都港区において、服を着ることを通して“障がいと生きる人”が抱えるおしゃれの悩みをともに考えるワークショップ「みなとコオフク塾」が任意団体CO-FUKUの主催で開催されました。「コオフク」は、“考服”、“CO（共同、相互）服”、“幸福”を意味する新しい言葉で、「みなとコオフク塾」は、障がいと生きる人の潜在的な衣生活の課題を発見し、「みな、同じ社会に生活する一員」として、“理解し”“考え”“カタチにする”試みです。「住空間創造企業」として、保育施設や介護施設などへの提案を行う当社では、同じ社会の一員として障がいと生きる人が抱える悩みと課題を共有するため、社会貢献活動の一環として、開催場所の提供など「みなとコオフク塾」に協力いたしました。これまでも当社は、東日本大震災復興支援活動に取り組んでまいりましたが、今後も、快適な住空間創造に寄与する社会貢献活動に継続的かつ積極的に取り組んでまいります。

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711（通話料無料）
（郵送先）	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所　ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住まいの飾り職人
ATOM LIVINTECH
アトムリビンテック株式会社

〒110-8680　東京都台東区入谷1-27-4　TEL　03(3876)0600(大代表)
ホームページ　https://www.atomlt.com/

UD FONT　見やすく読みまちがえにくい ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org　ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080